

須磨シニアコミュニティ

平成 31 年度事業計画

<施設理念>

『目と手に心をそえて』を基本に
私達は、
生きがいある生活と（利用者様）
やりがいのある仕事（職員）
思いやりのある人づくり（法人）
社会づくりをめざします（社会）

<基本方針>

理念に基づき、ユニットケア、自立ケア、防災の3つを重点項目として研修や実践を展開します。

<従業員数>

正職員	58名	(男19名 女39名)	
P職員	33名	(男9名 女24名)	合計91名

●施設

今期のテーマ 『経営基盤・人材の安定』

今期計画

- 1、経営基盤の安定
- 2、人材育成と人材確保
- 3、働きやすい労働環境への整備と管理
- 4、管理体制の強化

1、経営基盤の安定

① 営業の強化

稼働率を上げるために日々の営業活動の強化を図るとともに、利用者様が長期入院とならないよう看護師・介護職は日頃のバイタルチェックなど巡回時の状況確認を十分に行い、ADLが低下しないように対応していく。

② 利用者様が入院とならないよう日頃から職員は感染防止対策・事故防止対策・誤嚥性肺炎防止につとめる。

③ サービスの質の向上を図ることが利用者・ご家族様が満足していただけることに繋がることより有効な研修等により職員の資質向上につとめる。

2、人材育成と人材確保

① 積極的に外部研修に参加させるとともに、外部講師を招くなど専門性のある研修を受講させる。

② 身体拘束廃止・高齢者虐待防止にむけた研修による指導を引き続き行い最低限の事柄についても理解と認識を高めさせる。

③ 新規採用者教育や中間管理職教育を充実させアセッサーによる能力評価なども取り入れる。

④ EPA 介護福祉士候補者等の計画に基づく研修及び他施設との合同研修の実施。

⑤ 神戸市高齢者介護士認定試験および合格者に対するキャリアアップ支援金活用し介護福祉士資格取得を推奨する。

3、働きやすい労働環境への整備と管理

① 部署毎に効率化を検討させるとともに、適正人員による運営を図っていく。また、不足部署については人員採用により早期適正化を図る。

② 業務効率や介護技術の研修をリーダー会議などで行い職員全員の意識改革をはかる。

③ メンタルヘルスチェックを実施し、問題ある職員がいないかの確認、産業医の指導をタイムリーに行う。

④ 全職員が年5日の年次有給休暇の取得ができるように、「働き方改革」の法案の中で労働基準法にもとづく考え方を職員に周知し、職員の意見を聴取し、出来る限り希望に沿った取得時季になるようにしていく。

⑤ 各種ハラスメントについては見て見ぬふりをしない土壌を構築する。

4、管理体制の強化

① マニュアルの整備、作成、改訂

② 各種委員会の活動を見直し、職員間の統一化を図る

<事故防止対策委員会>

定期の職員研修の実施、事故を未然に防ぐ委員会としての体制づくり

<高齢者虐待防止、身体拘束廃止委員会>

定期的な研修の実施、職員間の意識の向上、ケアの検討

3ヶ月毎の委員会の実施

<防災対策委員会>

立地条件を考え、定期的な訓練等の実施、地域との関わりを持つ、減災、防犯を意識した職員間の共通認識

<衛生委員会>

健康管理に努め、腰痛を事前に予防する体制づくり、ストレスチェックの受検の推進

<感染対策、褥瘡予防委員会>

研修の実施により、介護職の知識の向上、早期発見に努める

<行事委員会>

定例行事の見直しを図り、四季に応じた行事の検討 利用者、ご家族が感じられる行事を行う

<教育推進委員会、介護サービス向上委員会>

年間計画に応じた職員への教育の実施と個別対応、技術、知識の指導

<苦情処理委員会>

苦情が発生した場合も含め、ご利用者、ご家族の意見や要望を聞き早期対応 苦情解決に努める

また苦情が発生した場合の対応策等を職員間で認識し、今後の対応に努める

●特別養護老人ホーム

特養入所定員 60名

SS入所定員 20名

介護正職員数 31名

介護P職員数 6名 派遣3名

看護師職員数 3名 P職員1名 派遣1名

<特養生活相談員>

今期のテーマ「入所して良かったと選ばれる施設を目指す」

- 今期計画
- 1、実質稼働率 94.5%の達成
 - 2、利用者、家族ニーズの把握

1、実質稼働率 94.5%の達成

(人員の安定)

- ①入所希望者の中から、ショートステイ、入所に繋げる方の把握をし、利用に繋げる。
- ②病院の地域連携室、ご家族との連携をし、早めの退院調整を行う。
- ③病院、老健、グループホームへの開拓を行い利用者の紹介依頼を行う。

2、利用者、家族ニーズの把握

- ①日頃よりコミュニケーションを図り、要望、ニーズを捉える。
- ②日頃から利用者の状態を伝えていく。
- ③季節に応じた行事等を検討する。

<特養介護職員>

今期のテーマ 「原点回帰」

- 今期計画
- 1、人材育成に努める
 - 2、辞めない職場環境作り
 - 3、サービスの質の向上
 - 4、稼働率の向上に努める
 - 5、各ユニットの目標

1、人材育成に努める

- ①教育推進委員会主催による施設内勉強会の参加
- ②外部研修に積極的に参加する。
- ③EPA 介護福祉士候補者の計画に基づく研修と助言、指導の実施。
- ④介護マニュアルを使用した新人研修の実施。

2、辞めない職場環境作り

- ①年 5 回の有給休暇の取得。
- ②介護士会へ参加し他施設の情報を共有する。

③超過勤務削減に努める。

3、サービスの質の向上

①高齢者虐待防止身体拘束廃止委員会主催により勉強会への参加、チェックリストを実施することで不適切ケアの削減に努める。

②定期的な人事異動の実施。

③報告・連絡・相談の徹底。

④3 ヶ月に1回の5Sチェックシートを実施しユニット内の美化に努める。

4、稼働率の向上に努める

①感染対策委員会、事故防止対策委員会主催による勉強会への参加、危険予知活動、感染予防対策を継続して実施し入院者の減少に努める。

②外部研修、施設内勉強会を通して介護技術、知識の向上を目指す。

③歯科往診記録及び口腔機能維持管理に関わる助言をユニット内で共有し誤嚥性肺炎による入院者を抑える。

5、各ユニットの目標

- ・舞子
 - ①職員間で情報を共有し、入居者へ統一したケアを提供します。
 - ②職員間、他職種、ご家族へ報告・連絡・相談を密に行い、サービスの向上に努めます。
 - ③挨拶や言葉使い等接遇を心がけ、不適切ケア及び虐待を防げるよう努めます。
- ・須磨ノ浦
 - ①ユニット職員間や他職種の方とコミュニケーション(報告・連絡・相談)を密にし、連携が出来るようにします。
 - ②EPA 候補生との関わりを通じて、他国と日本の相互理解を図れるようにします。
 - ③施設理念に基づき、入居者がその人らしい生活を送れるように努めます。
- ・淡路
 - ①ユニット内の整理整頓を行い、入居者様が安心して安全に過ごせる生活環境を作ります。
 - ②報告・連絡・相談をしっかり行い、サービスの質の向上を図ります。
 - ③ユニット内の情報を共有し、事故や不適切ケア、虐待を未然に防げるよう努めます。
- ・一の谷
 - ①働きやすいユニット、人材育成強化に努めます。
 - ②環境整備、コスト削減に努めます。
 - ③ユニットでの食事レクリエーションを定期的(偶数月)に開催します。
- ・離宮
 - ①職員同士で注意し合える職場作りを目指し、介護事故、不適切ケアの減少に努めます。

- ②行事食の開催や余暇活動等を充実させ入居者と関わる時間を作ります。
 - ③ユニット内での整理整頓、報告、連絡、相談を徹底しサービスの向上を目指します。
- ・村雨
- ①入居者様との関わりを大切にし、暮らしやすい環境を提供出来るように職員間の報告、連絡、相談を密にします。
 - ②日々の身体と心の小さな変化に気づき、心身ともに良い生活が送れるように支援します。
 - ③個々の生活を大切にし、安心してすごしていただける様にあらゆる生活空間の整理整頓、環境整備に努めます。

<介護支援専門員>

今期のテーマ 利用者や家族が持っている「生活の力や介護の力」を把握する

今期計画 1、支援経過記録の作成
2、状態変化時の対応

- 1、モニタリングを通じて把握した、利用者家族の意向、満足度、目標の達成度
介護、他職員よりの情報に基づきケアマネジャーとしての判断、プランの必要性等を記載する。
- 2、状態の変化や新たな課題発生時
 - ・再アセスメントを実施、問題となる課題の抽出。
 - ・支援経過記録に状況を記載する。
 - ・必要時はプランを修正し新たな原案を作成する。
 - ・カンファレンスの開催。

<看護職員>

今期のテーマ「施設看護の役割を明確化する」

今期計画 1、業務を見直し、整理、改善する
2、統一した看護を提供する

- 1、業務を見直し、整理、改善する

- ①曖昧な業務を抽出し、効率良い業務を組み立てる。
- ②年間業務を把握し、的確に実施できる体制作りを行う。
- ③業務マニュアル等を作成し、共有化を図る。

2、統一した看護を提供する

- ①積極的に多職種と意見交換を行う。
- ②介護の現場より、的確に情報提供を受ける。
- ③多職種に適切に情報提供を行う。

<管理栄養士>

今期のテーマ「充実した食事内容で喫食率の向上を目指す」

- 今期計画
- 1、栄養ケアマネジメントを活用し、低栄養の改善・予防に努める
 - 2、年間行事食等の食事の充実を図る

1、栄養ケアマネジメントを活用し、低栄養の改善・予防に努める

- ①低栄養状態の高リスク者への早期対応を他職種と協働して行う。
- ②ミールラウンドを行い、食思低下者を早期発見する。
- ③必要に応じて栄養補助食品等を用いる。

2、年間行事食等の食事の充実を図る

- ①行事食の内容等を給食委託会社と協議し、充実を図る。
- ②嗜好調査を実施し、献立内容に反映する。
- ③食事レクやおやつレク等をユニットと協力して行える体制作りを努める。

●ショートステイ

<ショートステイ生活相談員>

今期のテーマ 「選ばれるショートステイを目指す」

- 今期計画
- 1.事業所との連携・情報交換の活用
 - 2.稼働率の安定 103%達成
 - 3.安心、安全な場所の提供、ご自宅と変わらない環境整備

4.ショートステイユニットの目標

1、事業所との連携・情報交換の活用

- ①サービス担当者会議への出席
- ②緊急的な利用の対応
- ③特養へ繋がる利用の推奨、相談

2、稼働率の安定最低 103%を維持する。

- ①ショートステイのリピーターの確保、安定化を図る。
- ②空床情報の定期的な発信と空きベッドの活用
- ③垂水区、西区、兵庫区など他区への新規開拓

3、安心、安全な場所の提供、ご自宅と変わらない環境整備

- ①事故をおこさない環境作り
- ②馴染みの出来る関係作りに支援する。
- ③余暇活動の検討

4、ショートステイユニットの目標

- ①ケアマネジャーとの連携、家族への報告の徹底
- ②居室環境の整備と行事、余暇活動の提供、個別介護計画書に沿った記録の充実とケアの検討会の実施
- ③荷物の忘れ物のチェック、着衣を含めた整容の管理に努め、安心して在宅に送り出す。
- ④業務改善(超過勤務の削減)、整理整頓、有給休暇の取得
- ⑤定期的な介護技術の見直しや接遇について、ユニット内で勉強会を開催
- ⑥安全な送迎
- ⑦コストダウンを考えた使用電源等の工夫と業務の遂行

●デイサービスセンター

利用定員数 30名

介護正職員数 8名(男1名 女7名 内P職員6名 派遣0名)

看護師職員数 2名(男0名 女2名 内P職員0名 派遣1名)

今期のテーマ 『笑顔』

今期計画 実質稼働率65%の達成

- 1、魅力あるデイへの転換
- 2、平均稼働率の向上と収益性向上
- 3、業務内容・任務分担の改善
- 4、季節行事・外出行事の企画

1、魅力あるデイへの転換

- ① 従来よりのサービス内容・レクなど良い部分を残しつつ、他の施設での経験や機能改善に結びつく様な新しいレク・メニューを積極的に取り入れることにより魅力あるデイと感じていただける様改革してまいります。
- ② お帰り頂く際は皆『笑顔』で帰って頂けるようにしていきます。
- ③ 職員1人1人が満足の味わえる職場としていきます。

2、平均稼働率の向上と収益性向上

- ① 当デイサービスの魅力を、従来どおり直接訪問による居宅ケアマネージャー様への営業活動によりアピールし、連携を図りながら新規稼働率の向上に努めていきます。
- ② 平成30年度についてはケアマネとの連携や営業活動により平均稼働率が向上してまいりましたが、曜日により稼働率がまちまちである事より平準化を図るためにも少ない曜日に来てもらえる交渉や利用者発掘を継続いたします。
- ③ また、介護度の高い方の利用についても認知症介護への取り組み等により平均介護度を意識した活動により収益性向上を図ります。

3、業務内容の改善・任務分担の改善

- ① デイ会議・レク会議には経営や居宅担当者も参加することで、現在の状況把握・課題を共通認識として捉え皆で取り組んでいきます。
- ② 利用者が前年より増加傾向にあることから、風呂の介助の他時間配分など状況により内容の見直しを図る。また、機能改善に向けた体操やレクなどを小まめ

に入れていく事でマンネリとならないような業務内容の変更をする。

- ③ また、8年に及ぶ自立支援の流れより水分摂取にウエイトが置かれていたが、過剰気味であるため昼食後のコーヒー提供・ゼリーの提供を中止いたします。それに伴い余剰人員をレク担当や記録係りにするなど中身のある活動につなげます。記録を時間内にすることによる時間外勤務の削減につなげます
- ④ 利用者増加に伴いデイ職員の増員もしてまいります。任務分担を確りと計画していくことで職員間の連携を向上させ利用者様へのサービスへつなげてまいります。

4、季節行事・外出行事の企画

- ① 商業施設ナナファームへのお買い物ツアーの他、食レクなど魅力ある行事を企画してまいります。

●須磨シニアケアプランセンター

介護支援専門員数 2名(男0名、女2名 内P職員0名)

今期のテーマ 「相談しやすい、開かれた居宅を目指す」

- 今期計画
- 1、利用者の生活の質の向上
 - 2、介護支援専門員としての質の向上
 - 3、介護支援事業所としての質の向上

1、利用者の生活の質の向上

- ①利用者の暮らしを理解し、その人らしい自立した生活ができるように支援する。
- ②一人暮らしや認知症の高齢者、中重度の要介護の方も地域で安心して暮らせるように支援する。
- ③介護の重度化予防をふまえ、要支援者・要介護者の生活機能維持を支援する。

2、介護支援専門員としての質の向上

- ①施設内での研修を開催するとともに、各種外部研修会への参加により、専門的な知識と技術を習得するように努める。
- ②新規利用者の相談が毎月2件以上入るように広報活動を積極的に行う。
- ③地域包括や病院の医療連携室などとの連携を密にして、多方面から相談が入るように信頼関係の構築を図る。

3、介護支援事業所としての質の向上

- ①毎月行う居宅会議において、情報の共有を図り、困難事例においても事業所全体で対応できる体制をとっていく。

- ②地域ケア会議や、各地域包括支援センターが主催する会議等に積極的に参加し、事例を提供していく。
- ③地域の課題解決に向けて、地域包括支援センターと連携して取り組んでいく。

●東須磨ケアプランセンター

介護支援専門員数 3名(男0名、女3名 内P職員1名)

今期のテーマ 「地域の方の身近な相談窓口を目指す」

- 今期計画
- 1、自立支援の理念にそったケアマネジメントの実施
 - 2、介護支援専門員の資質向上を図る
 - 3、地域の事業所として信頼関係を構築する

1、自立支援の理念にそったケアマネジメントの実施

- ① 居宅介護支援に関する法令を遵守し、基準に則した運営を行う。
利用者が個々の能力に応じ、住み慣れた地域で自立した在宅生活ができるよう、自立支援と重度化予防の視点を持ったケアプランを作成する。
- ②保健医療機関、施設サービスなど多様な事業所との連携を図り、総合的かつ、効果的サービス提供が行われるように支援を行う。

2、介護支援専門員の資質向上を図る

- ① 月1回 定期的に居宅会議を開催し、ケアマネジメントにおける困難事例の検討、業務上の改善点やケースについての意見交換を行い、情報共有する。
- ②各種研修等に参加して、知識を深めると共に最新の情報収集に努める。

3、地域の事業所として信頼関係を構築する

- ①ケースを通じ地域の課題や、ニーズを発掘し、地域包括支援センターと共に地域づくりを行う一員として努める。
- ②地域住民に選ばれる事業所となれるように、積極的に地域に出向き新規利用者の獲得を行っていく。

●板宿あんしんすこやかセンター

社会福祉士1名、看護師1名、主任介護支援専門員2名、
地域支え合い推進員1名、介護予防プランナー2名

今期のテーマ 『個別ケース支援、地域診断、地域ケア会議を通じて、高齢者の困りごとに視点を当て、住民・専門職と協働して、地域の課題を明確化する。又、資源発見・開発につとめ、地域の高齢者を重層的に支え合う地域づくりを目指す』

今期計画 1、神戸市地域包括支援センター運営評価基準を遵守したセンター運営
2、職員相互の信頼・協力関係を構築して、専門性の発揮とチームアプローチを両立させる。
3、地域診断を通じて地域課題の客観化・分析を行い、住民・多職種多機関との協働で問題解決にあたり支援する。

1、神戸市地域包括支援センター運営評価基準を遵守したセンター運営

- ①総合相談業務：センター業務（センター一般、成年後見制度、虐待防止、介護予防普及啓発、認知症、介護リフレッシュ教室等）の広報活動を行い、認知度を上げる。高齢者、又は家族の多様なニーズに対して、緊急性を配慮した対応を計画的に行う。年6回 介護リフレッシュ教室を開催して、家族介護者の負担軽減の場を提供する。
- ②権利擁護業務：緊急性・優先順位をセンター内で共有・協議して、複数の課題を持つ事例への対応について、関係機関と対応を組織的に検討する
- ③介護予防業務：介護予防の取り組みが必要な高齢者を早期把握、必要な支援に繋げる。又、マニュアルを遵守し、介護予防ケアマネジメントを適時適切に実施する。
- ④包括的継続的ケアマネジメント業務：地域の介護支援専門員との連絡会、研修会を定期的で開催する。又、自己研鑽にも努め、介護支援専門員から相談を受けやすい関係づくりを構築する。適宜、社会資源の情報提供を行う。
- ⑤地域支え合い推進活動事業：民生委員、ふれあいのまちづくり協議会等の地域支援者との連携を図り、見守り体制やコミュニティづくりを支援する。

2、職員相互の信頼・協力関係を構築して、専門性の発揮とチームアプローチを両立させる。

- ①朝礼、定例会議（あんすこ会議、4職種会議等）、必要時ミーティングを通じて、ホワイトボードによる個別事例、地域課題等業務の可視化を図り、情報を共有する。

②職員の業務の負担感や不得手な部分を他の職員が相互に補い合い、多問題事例や多種多様に亘る業務をチーム一丸となって取り組む。

③各々が専門職である自覚を持ち、謙虚さ、かつ主体性を持って自己研鑽に努める。

3、地域診断を通じて地域課題の客観化・分析を行い、住民・多職種多機関との協働で問題解決にあたり支援する。

①地域診断について、複数の情報をもとにアセスメントし住民・専門職に明示する。

②認知症地域資源ネットワーク会議、高齢者虐待防止ネットワーク会議に参加する。

③年4回 地域診断に基づいた年間計画を作り、須磨保健センター、須磨区社会福祉協議会の助言を受け、地域ケア会議を定期開催する。

(東須磨地区、板宿地区、全体会)

④③開催後、センター内で振り返り、課題のまとめを実施し、住民・専門職へフィードバックする。今後のセンター運営に反映させる。